

## 令和2年度 「学校評価結果」

### 教育目標

「生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、  
自らの将来と次代を切り拓く生徒を育成する」

### 年度末の最終評価

自己評価	<b>教育目標達成状況、次年度に向けた見直し</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・主体的・対話的な深い学びについて、コロナ禍で十分取組ができていない面がみられる。次年度は、G I G Aスクール構想の端末を活用して、思考力が高まるような授業改善を進めていく。</li><li>・登校できない生徒や悩みを抱えた生徒に寄り添い、支えていく取り組みを引き続き行っていく。</li></ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍でも、生徒か行事などに主体的に取り組み、学校生活に前向きに取り組んだことは大いに評価できる。</li><li>・登校できない生徒への寄り添いはもちろん、学力の面でもオンライン授業などの工夫による取り組みを進めてもらい、学力の向上を図っていくことが必要である。</li><li>・悩みを抱えた生徒に対し、話を聞ける機会を増やすためにスクールカウンセラーや関係機関と連携しながら取り組んで行くことが肝要である。悩みをもった生徒のケアをお願いしたい。</li><li>・プロセス及び取り組みを評価し、次年度に活かすことを期待する。</li></ul>

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月26日	学校運営協議会理事会
最終評価	令和3年3月2日～5日	学校運営協議会理事会

### （1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

#### 重点目標

- ① 入学時から必ず力をつけて卒業させる。指導と評価→結果に責任をもつ。
- ② 主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い授業への創意工夫を進める。

#### 具体的な取組

- ・授業では「本時の目標」を確認し、生徒同士が協働的に行う「まとめ・振り返り」を取り入れ、理解と定着を徹底する。
- ・授業規律を確立し、探究活動の手法を取り入れ、言語活動を通じて、他者の考え方や思いを参考に、自己の考え方や思いを他者に伝えられる生徒中心の授業、深い学びに向かう授業を行う。
- ・P D C Aサイクルを生かしたカリキュラム・マネジメントを実践し、年間計画に基づいた評価時期までの学習計画を明確にし、「つけたい力」を確実に身につけさせる授業を展開する。
- ・学年・教科を越えた教科横断型の課題を取り入れ、自主的な家庭学習の習慣化を図る。
- ・教師によるICTの活用にとどまらず、生徒にもICT機器を活用したプレゼンテーションを行わせる。
- ・図書室を活用した授業を全教科で年1回以上行い、調べ学習等、情報収集や活用能力を高める。
- ・キャリア教育の視点から全教育活動を関連づけるとともに、「総合的な学習の時間」における探究的な学びを重視する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム5, 学習確認プログラムの結果分析
- ・学期末における学習評価
- ・生徒アンケート
  - ① 毎時間の授業で、「自分で考える」ことができている。
  - ② 毎時間の授業で、「自分の考え」について発言・発表することができている。
  - ③ 毎時間の授業で、「自分の考え」について交流し合い深めることができている。

中間評価

各種指標結果

- ・ジョイントプログラム5, 学習プログラムの結果分析
- ・学期末における学習評価
- ◆「思考力・判断力」(社会・数学・理科・保健体育の10月評価) 観点の評価 (4科の平均値)

1年生 A(十分満足できる)…19.5	B(概ね満足できる)…46.2	C(努力を要する)…34.3
2年生 A(十分満足できる)…25.7	B(概ね満足できる)…33.5	C(努力を要する)…40.8
3年生 A(十分満足できる)…23.7	B(概ね満足できる)…41.8	C(努力を要する)…34.5
- ◆生徒アンケート
  - ① 授業で、「自分で考える」場面が設けられている。  
そう思う…54.0% 大体そう思う…38.1% あまりそう思わない…6.9% そう思わない…1.0%
  - ② 授業で、「自分の考え」について話す場面が設けられている。  
そう思う…44.1% 大体そう思う…45.5% あまりそう思わない…8.9% そう思わない…1.5%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ◆「思考力・判断力」観点の評価について、2年生・3年生の結果を前年度の1年生・2年生と比較すると前年度より現2年生はAが-1.2ポイント、Bが-10.6ポイント、Cが+11.8ポイントで、現3年生はAが-4.8ポイント、Bが+5.2ポイント、Cが-0.4ポイントであった。

「思考力・判断力」を授業中に問う場面が少なかったため、定期テストのウエイトが大きくなつた。また、2年生では、学習内容の難易度が上がつたこと、特に社会科・理科では生徒の苦手分野が多くの割合を占めたため、Cの評価が増加したと考えられる。

- ◆生徒アンケート

生徒アンケートについて、肯定的な回答割合が、昨年の同時期に比べそれぞれ-3.2ポイント、-4ポイントとなっている。休校期間の学習の遅れを取り戻すために、進度優先になっている影響と思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「思考力・判断力」の評価で、特に2年生でCの増加が大きいので、授業の中で思考力を養う発問やペア学習などをより多く取り入れた授業を行い、機会を充実していく。
- ・「自分で考え」「自分の考えを話す」ことは、主体的な学びであるため、時間の工夫を行つて、「考える」場面を多くする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・校内の学習評価だけでなく、学習確認プログラムの結果を加えて、「学力向上」の指標とする。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも学校全体の雰囲気は落ち着いていて、教育活動が進められていて安心できる。</li> <li>・「思考力」「判断力」の向上する取組をしっかりと進めてほしい。</li> </ul>

## 最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習確認プログラムの「思考力・判断力」(社会・数学・理科)の正答率の平均値</li> </ul>
	1年生 自校平均 51.51 全市 57.32
	2年生 自校平均 42.25 全市 41.87
	3年生 自校平均 42.73 全市 45.82
	◆「思考力・判断力」(社会・数学・理科・保健体育の12月評価) 観点の評価(4科の平均値)
	1年生 A(十分満足できる)…18.3 B(概ね満足できる)…48.6 C(努力を要する)…33.1
	2年生 A(十分満足できる)…26.7 B(概ね満足できる)…35.3 C(努力を要する)…38.0
	3年生 A(十分満足できる)…28.9 B(概ね満足できる)…42.2 C(努力を要する)…28.9
	◆生徒アンケート
	① 授業で、「自分で考える」場面が設けられている。 そう思う…52.3% 大体そう思う…42.3% あまりそう思わない…4.1% そう思わない…1.4%
	② 授業で、「自分の考え」について話す場面が設けられている。 そう思う…49.1% 大体そう思う…45.5% あまりそう思わない…4.5% そう思わない…0.9%
	1年生 そう思う…55.9% 大体そう思う…44.1% あまりそう思わない…0.0% そう思わない…0.0%
	2年生 そう思う…45.2% 大体そう思う…48.4% あまりそう思わない…4.8% そう思わない…1.6%
	3年生 そう思う…46.7% 大体そう思う…44.4% あまりそう思わない…7.8% そう思わない…1.1%
学校 関 係 者 評 価	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	学習確認プログラムについて1・3年生が全市平均より低かった。2年生については全市平均を超えており、1年生では、「思考力・判断力」をみる4教科の観点の割合は前期とほぼ変わらず、また「自分の考え」について話す場面について肯定的な意見は100%である。この点から授業では思考力は発揮出来ているが、学習確認プログラムでは力を発揮できていないと考える。2・3年生では、「A(十分満足できる)」の値が増加している。3年生については、「自分の考え」について話す場面について肯定的な意見が前期より+7.3%である。実力的には全市に届いていないが、少しずつではあるが「思考力・判断力」がついてきていると考える。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	1年生については、自分の考えを書く際に時間を測るなど緊張感の中で答えたり、自分の考えをまとめられるような段階を追った質問形式に変えるなどの工夫を試みる。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動が、引き続き落ち着いた雰囲気の中進められるように願います。</li> <li>・「思考力・判断力」が向上しており、取り組みの成果が出てきているので、常に力が発揮できるように取り組みを進めてほしい。</li> </ul>

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

### 重点目標

- ① 主体性、自主・自律、向上心を育む指導を推進する。
- ② 「ほめる」ことを大切にし、「向上心」を育てる教育を実践する。

### 具体的な取組

- ・あいさつや声かけを徹底し、生徒との信頼関係を築き、規律ある学校にする。
- ・常に目配り・心配りを心がけ、見逃しのない指導・機動力ある組織的な指導を行う。
- ・生徒会活動や学級活動において生徒の自治意識を高める取組を推進する。
- 生徒の行動目標として、引き続き「当たり前のレベルをあげる」を掲げ、実践していく。
- ・道徳の授業を要とした道徳教育を充実する。
- ・授業や学活では必ず一人一人全員への声かけと一人一人全員の発話を引き出すことを心がける。
- ・良さを伸ばし、課題に向き合う姿を支援する。
- ・個で取り組む場面、仲間と協力する場面、それぞれで適切な指導と評価を行い、達成感を味わわせるとともにさらなる改善向上への支援を行う。
- ・不登校生徒や困りをかかえた生徒に対して計画的な支援を行う。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・道徳の時間の評価
- ・生徒アンケート
  - ① 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。
  - ② 道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。
- ・クラスマネージメントシート

### 中間評価

#### 各種指標結果

- ・生徒アンケート
  - ① 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。  
全体「そう思う」…34.7 「大体そう思う」…50.5 「あまりそう思わない」…11.9  
「そう思わない」…3.0
  - 1年「そう思う」…31.9 「大体そう思う」…49.3 「あまりそう思わない」…13.0  
「そう思わない」…5.8
  - 2年「そう思う」…37.3 「大体そう思う」…53.7 「あまりそう思わない」…7.5  
「そう思わない」…1.5
  - 3年「そう思う」…33.3 「大体そう思う」…52.6 「あまりそう思わない」…14.1  
「そう思わない」…0.0
- ② 道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。  
全体「そう思う」…38.8 「大体そう思う」…48.3 「あまりそう思わない」…10.4  
「そう思わない」…2.5
- 1年「そう思う」…34.8 「大体そう思う」…49.3 「あまりそう思わない」…13.0  
「そう思わない」…2.9
- 2年「そう思う」…51.5 「大体そう思う」…43.9 「あまりそう思わない」…1.5  
「そう思わない」…3.0
- 3年「そう思う」…28.1 「大体そう思う」…50.9 「あまりそう思わない」…19.3  
「そう思わない」…1.8

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる点については、1年生は、主体的に活動する場面が少なかったため、否定的な意見が19%弱の結果であったと思われる。逆に、2年生では、91%の生徒が積極的に取り組めたと評価している。3年生は、コロナ禍で例年の取組がなく、十分な活動ができていないと考えている。</li> <li>◇ 道徳の時間については、2年生が肯定的な意見が95%を超えており、3年生では否定的な意見が21%となっている。昨年度の同時期と比べると、現2年生は1年生の時より「そう思う」が+1.5%、「大体そう思う」が+3%，現3年生は2年生の時より「そう思う」が+1.7%，「大体そう思う」が-7.7%となっている。3年生では、修学旅行の取組との関連で、自然との関わりや集団について扱うことが多かったためと考えられる。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動や生徒会活動については、生徒総会に向けた学級討議や学校行事での委員会活動などで生徒を主体的に活動させていくことで、1年生の意識を変えていく。生徒が自ら考え、活動できる場を増やしていく。</li> <li>・道徳の時間については、3年生で自分自身や人とのかかわりに関する内容を取り組み、1時間ずつ丁寧な授業づくりを進めていく。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道徳の時間の評価</li> <li>◇生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。</li> </ul> </li> <li>◇クラスマネージメントシート</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動など生徒の活発な自治的活動が継続されることを期待します。</li> <li>・特に3年生の「自分のことを振り返り、深く考えることができている」の落ち込みが気になる。そういうことができる時期に熟慮する機会が十分なく、芸能人の自死など社会的に影響を受ける要因が増加している。自分の命はもとより他人の命も守れるような生徒に育っていくことを期待します。</li> </ul>

## 最終評価

	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。</li> </ul> </li> </ul>
全体	<p>「そう思う」…40.5 「大体そう思う」…46.8 「あまりそう思わない」…10.8  「そう思わない」…1.8</p>
1年生	<p>「そう思う」…42.6 「大体そう思う」…48.5 「あまりそう思わない」…8.8  「そう思わない」…0.0</p>
2年生	<p>「そう思う」…45.2 「大体そう思う」…46.8 「あまりそう思わない」…4.8  「そう思わない」…3.2</p>
3年	<p>「そう思う」…34.4 「大体そう思う」…46.7 「あまりそう思わない」…16.7  「そう思わない」…2.2</p>

② 道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。

全体 「そう思う」 … 44.1 「大体そう思う」 … 45.0 「あまりそう思わない」 … 8.1

「そう思わない」 … 2.7

1年 「そう思う」 … 50.0 「大体そう思う」 … 42.6 「あまりそう思わない」 … 5.9

「そう思わない」 … 1.5

2年 「そう思う」 … 50.0 「大体そう思う」 … 40.3 「あまりそう思わない」 … 6.5

「そう思わない」 … 3.2

3年 「そう思う」 … 35.6 「大体そう思う」 … 51.1 「あまりそう思わない」 … 10.0

「そう思わない」 … 3.3

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

◇ 学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる点については、1年生は、前期に比べ否定的な意見が-10 ポイントで 9 %弱になりました。生徒会活動が本格的に動き出した結果と思われる。2年生では、92 %の生徒が積極的に取り組めたと引き続き高い評価している。3年生は、本部役員も2年生に移行していくので、少しポイントが下がっている。また、コロナ禍で行事が例年より縮小しているため、モチベーションが下がったと考えられる。

◇ 道徳の時間については、1年生が肯定的な意見が 92 %を超え、前期に比べ +8.5 ポイントとなりっている。3年生は前期より「そう思う」が +7.5 %、「大体そう思う」が +0.2 %となっている。3年生では、進路決定に向けての題材を扱うことで、自分のことを振り返る機会が増えたと考えられる。2年生については、前期とほとんど変わらない結果であった。

保護者アンケートでも「道徳の時間」がしっかりと取り組めていると各学年で肯定的な意見が前期より増えている。（肯定的な意見 81.7 %、否定的な意見 6.3 %、わからない 11.9 %）特に1年生では、肯定的な意見が 87.3 %と前期より +24.2 % である。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・学級活動や生徒会活動については、3年生を送る会や新入生を迎える会などの学校行事で生徒会本部役員をはじめ委員会活動などで生徒を主体的に活動させていく。
- ・道徳の授業のさらなる充実を図っていく。

学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・生徒会活動など生徒の自治的活動が、更に活発になったことは大いに評価できる。来年度も継続されることを期待します。
- ・道徳の時間で「自分のことを振り返り、深く考えることができている」ことに肯定的な意見が増えていることは、取り組みの成果と考えられる。熟慮することは、社会に出てからも必要で将来の力となるので、今後もしっかりと取り組んでいってほしい。
- ・コロナ禍がまだ続くが、人を思いやり、自分の命も他人の命も守れるような生徒に育っていくことを期待します。

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

- ① 「命を守りきる」「事故・けがの未然防止」を常に念頭に置く。
- ② 笑顔でありさつする生徒を育てる。

#### 具体的な取組

- ・学校営繕ならびに安全管理、救命講習等、平常時の危機管理を徹底する。
- ・防災訓練等で「もしも」に対する備えを行う。
- ・安全を徹底し、創意工夫ある教育活動を推進する。
- ・校内外の清掃活動を徹底する。
- ・タイムリーかつ創意工夫ある掲示物を掲示する。
- ・生活習慣の確立を支援し、健康を保持・増進する意識と態度を育てる。
- ・体育的行事や部活動の充実を図り、体力の向上を推進する。
- ・性に関して適切な行動選択ができる性教育を行う。
- ・飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性、危険性について正しい知識を身につけさせる。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・事故・けがの発生件数とその内容
- ・校内施設・設備点検票

#### 中間評価

##### 各種指標結果

- ・保健室利用状況(6月～9月)

##### 【外科の内容】 92件

1年生 27件 2年生 28件 3年生 37件

##### 【内科の内容】 92件

1年生 19件 2年生 20件 3年生 53件

#### 自己評価

##### 分析(成果と課題)

- ◆休校期間があり、昨年とは比較できないが、3年生で怪我が増えている。休校期間や部活動の停止により、運動不足による体力の低下などが見受けられる。
- ◆内科的内容については、1・2年生では比率的には減少しているが、3年生では増加している。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・保健体育課を中心に体力測定の等の分析を進め、授業や諸行事を通じて「体づくり」を進める。

##### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・けが等の発生件数とその内容
- ・校内施設・設備点検票

#### 学校関係者評価

##### 学校関係者による意見・支援策

- ・コロナ禍による生活様式の変化に耐えられる逞しい心身の育成を期待する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策による行事等の工夫については、制約や制限もあるができる限りいろいろな経験をさせて欲しい。

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・保健室利用状況(10月～1月)

#### 【外科的内容】 37件

1年生 18件 2年生 11件 3年生 8件

#### 【内科的内容】 28件

1年生 0件 2年生 12件 3年生 16件

#### 【その他】 94件

1年生 5件 2年生 9件 3年生 80件

自己評価	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"><li>・外科的や内科的な内容以外で保健室を訪れる生徒が増加した。</li><li>・生徒会からの要望なども含め, 修繕・改善する箇所については随時修理等を行い, 改善してきた。</li></ul>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の悩みについては, 保健室だけでなく, 担任をはじめ学年やスクールカウンセラーなど校内での連携をとり, 課題解決につなげていく。</li></ul>

## (4) 学校独自の取組

### 重点目標

- ① 9年間の教育目標(中学校ブロックの小・中学校で共有すること)  
「次代をたくましく生き抜く力を育てる」
- ② 目指す子ども像(中学校ブロックの小・中学校で共有すること)
  - ・しっかりとあいさつのできる子ども
  - ・自ら学ぶ子ども
  - ・健康, 安全に気をつける子ども
  - ・意欲的に取り組み, やり切る子ども
  - ・自分, 人, ものを大切にする子ども

### 具体的な取組

- ・学力向上を核とした小中連携の中心的役割を担い, 推進する。
- ・小中4校の管理職による定期的協議(年間6回程度)
- ・小中4校の小中連携主任(教務主任)による定期的協議(年間6回程度)
- ・小中4校研究主任による定期的協議(年間5回程度)
- ・小中4校生徒指導部長, 生徒指導主任による定期的協議(年間4回程度)
- ・小中4校連携による教科指導ならびに道徳の授業を通した交流, 参観, 研究協議

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習評価における「関心・意欲・態度」評価の状況
- ・生徒アンケート
  - ① 授業にはやる気の出る雰囲気がある
  - ② やる気の出る授業は〇〇である

## 中間評価

### 各種指標結果

◇9教科（10月評価）における「関心・意欲・態度」の観点評価（数値は、9教科の平均値）

1年生 A(十分満足できる) 40.1% B(概ね満足できる) 40.0% C(努力を要する) 19.9%

2年生 A(十分満足できる) 43.5% B(概ね満足できる) 33.4% C(努力を要する) 23.1%

3年生 A(十分満足できる) 49.0% B(概ね満足できる) 33.8% C(努力を要する) 17.2%

### ◇生徒アンケート

授業には、やる気の出る雰囲気がある。

全体 「そう思う」 … 25.4% 「大体そう思う」 … 55.2% 「あまりそう思わない」 … 14.4%  
「そう思わない」 … 5.0%

1年 「そう思う」 … 25.0% 「大体そう思う」 … 57.4% 「あまりそう思わない」 … 13.2%  
「そう思わない」 … 4.4%

2年 「そう思う」 … 29.9% 「大体そう思う」 … 52.2% 「あまりそう思わない」 … 14.9%  
「そう思わない」 … 3.0%

3年 「そう思う」 … 19.3% 「大体そう思う」 … 57.9% 「あまりそう思わない」 … 15.8%  
「そう思わない」 … 7.0%

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ◆ 1・3年生は、「関心・意欲・態度」の評価が高く、2年生では「努力を要する」評価の生徒が4分の1弱いる。
- ◆ 生徒アンケートをみると、「授業でのやる気」は2年生より3年生に否定的な項目の割合が高い。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・提出物の期限を守ることや忘れ物をしないなど生活習慣に対する意識改善を行っていく。
- ・わかる授業・丁寧な授業を行い、「やる気」を出させる目標設定や授業改善を進めていく。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学習評価における「関心・意欲・態度」評価の状況
- ・生徒アンケート

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・昨年度に比べ、全体として否定的な意見が若干ではあるが減少しているので、今後も継続して授業の工夫改善を行ってほしい。
- ・コロナ禍での小中連携とは何か、何ができるかを検討し、前進してもらいたい。

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

◇9教科（12月評価）における「関心・意欲・態度」の観点評価（数値は、9教科の平均値）

1年生 A(十分満足できる) … 36.7% B(概ね満足できる) … 40.2% C(努力を要する) … 23.1%

2年生 A(十分満足できる) … 41.6% B(概ね満足できる) … 34.1% C(努力を要する) … 24.3%

3年生 A(十分満足できる) … 46.8% B(概ね満足できる) … 36.9% C(努力を要する) … 16.3%

自己評価	◇生徒アンケート
	<p>授業には、やる気の出る雰囲気がある。</p> <p>全体 「そう思う」 … 25.2% 「大体そう思う」 … 54.1% 「あまりそう思わない」 … 16.2%  「そう思わない」 … 4.5%</p> <p>1年 「そう思う」 … 30.9% 「大体そう思う」 … 52.9% 「あまりそう思わない」 … 11.8%  「そう思わない」 … 4.4%</p> <p>2年 「そう思う」 … 19.4% 「大体そう思う」 … 56.5% 「あまりそう思わない」 … 17.7%  「そう思わない」 … 6.5%</p> <p>3年 「そう思う」 … 24.4% 「大体そう思う」 … 53.3% 「あまりそう思わない」 … 18.9%  「そう思わない」 … 3.3%</p>
	<p><b>分析 (成果と課題)</b>, 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>◆ 3年生は、「関心・意欲・態度」の評価が高く、1・2年生では「努力を要する」評価の生徒が4分の1弱いる。特に1年生は、前期に比べて「十分満足できる」の割合が減った分だけ「努力を要する」生徒が増えている。</p> <p>◆ 「授業には、やる気の出る雰囲気がある」については、1・3年生でより肯定的な意見が増えている。2年生では、職場体験の中止等の影響が見受けられる。</p> <p>◇保護者アンケートでは、「熱意をもって教科指導にあたっている」という点で肯定的な意見が87%を占めており、授業はしっかりと行えていると捉えられている。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で「学習のめあて」をしっかりと押さえさせ、1時間の目標を意識させながら、授業展開を行っていく。</li> <li>卒業後の進路を意識させることにより、日々の授業の大切さを押さえなおし、自ら「頑張っていこう」という姿勢になるよう取り組みを行っていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、やる気の起こる「わかる授業」が行われるように授業の工夫改善を行ってほしい。</li> <li>将来を意識でき、目標が立てられるような取り組みを行ってほしい。できることがあれば協力していきたい。</li> </ul>

## (5) 教職員の働き方改革について

重点目標
<p>① 働きがいのある、魅力ある職場にする。</p> <p>② 教職員のつながりを大切にし、校務や業務の効率化を図る。</p>
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の働き方改革推進への意識を高め、会議の効率化や教科内の連携強化を行う。</li> <li>校務支援員やボランティア等の人材を活用し、超過勤務の削減を図る。</li> <li>時間的ゆとりを、教材研究や自己研鑽に生かし、教育の質を向上させる。</li> <li>保護者・地域に働き方改革の理解と協力を得る。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート</li> <li>時間外勤務時間と各自の時間達成目標</li> </ul>

## 中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b>												
	◇ 「学校教育目標・重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。」 「そう思う」…44.4% 「大体そう思う」…50.0% 「あまりそう思わない」…5.6% 「そう思わない」…0.0%												
	◇ 時間外勤務時間は、80時間を越える教職員は0名で、最大でも68時間である。												
学校関係者評価	<table border="1"><tr><td><b>分析 (成果と課題)</b></td></tr><tr><td>・時間外勤務時間が昨年度に比べ、全体的に大幅に減少している。校務支援員の活用が浸透していった結果と考えられる。</td></tr><tr><td>・時間外勤務時間が多い教職員は限られており、業務に偏りが感じられる。</td></tr><tr><td>・留守番電話の設定を早めることができた。</td></tr><tr><td><b>分析を踏まえた取組の改善</b></td></tr><tr><td>・部活動の分担や校務の連携を図ることで、偏りの改善や効率化を推進していく。</td></tr><tr><td>・時間外勤務時間の見える化を進めていく。</td></tr><tr><td><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></td></tr><tr><td>・教職員アンケート</td></tr><tr><td>・時間外勤務時間と各自の時間達成目標</td></tr><tr><td><b>学校関係者による意見・支援策</b></td></tr><tr><td>・今後も教職員の働き方改革を進めていってほしい。</td></tr></table>	<b>分析 (成果と課題)</b>	・時間外勤務時間が昨年度に比べ、全体的に大幅に減少している。校務支援員の活用が浸透していった結果と考えられる。	・時間外勤務時間が多い教職員は限られており、業務に偏りが感じられる。	・留守番電話の設定を早めることができた。	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>	・部活動の分担や校務の連携を図ることで、偏りの改善や効率化を推進していく。	・時間外勤務時間の見える化を進めていく。	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>	・教職員アンケート	・時間外勤務時間と各自の時間達成目標	<b>学校関係者による意見・支援策</b>	・今後も教職員の働き方改革を進めていってほしい。
<b>分析 (成果と課題)</b>													
・時間外勤務時間が昨年度に比べ、全体的に大幅に減少している。校務支援員の活用が浸透していった結果と考えられる。													
・時間外勤務時間が多い教職員は限られており、業務に偏りが感じられる。													
・留守番電話の設定を早めることができた。													
<b>分析を踏まえた取組の改善</b>													
・部活動の分担や校務の連携を図ることで、偏りの改善や効率化を推進していく。													
・時間外勤務時間の見える化を進めていく。													
<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>													
・教職員アンケート													
・時間外勤務時間と各自の時間達成目標													
<b>学校関係者による意見・支援策</b>													
・今後も教職員の働き方改革を進めていってほしい。													

## 最終評価

学校関係者評価	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>						
	◇ 「学校教育目標・重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。」 「そう思う」…47.1% 「大体そう思う」…47.3% 「あまりそう思わない」…5.6% 「そう思わない」…0.0%						
	◇ 時間外勤務時間は、80時間を越える教職員は1名いた。10月の超過勤務者は14人に上った。						
学校関係者評価	<table border="1"><tr><td><b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></td></tr><tr><td>・公式戦や三者懇談会などが続き、時間外の超過勤務が増えた。三者懇談会の時間設定を勤務時間内になるよう案内を出しているが、共働き家庭や保護者の仕事の関係で時間外の懇談設定になってしまう。</td></tr><tr><td><b>分析を踏まえた取組の改善</b></td></tr><tr><td>・時間の先読みを行い、学年の打ち合わせなどを効率よく行つて行けるように工夫する。</td></tr><tr><td>・今後も時間外勤務の時間を声掛けなどで意識させる。</td></tr><tr><td>・今後も校務支援員や部活動指導員の活用により、教職員の負担が偏らないように図っていく。</td></tr></table>	<b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b>	・公式戦や三者懇談会などが続き、時間外の超過勤務が増えた。三者懇談会の時間設定を勤務時間内になるよう案内を出しているが、共働き家庭や保護者の仕事の関係で時間外の懇談設定になってしまう。	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>	・時間の先読みを行い、学年の打ち合わせなどを効率よく行つて行けるように工夫する。	・今後も時間外勤務の時間を声掛けなどで意識させる。	・今後も校務支援員や部活動指導員の活用により、教職員の負担が偏らないように図っていく。
<b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b>							
・公式戦や三者懇談会などが続き、時間外の超過勤務が増えた。三者懇談会の時間設定を勤務時間内になるよう案内を出しているが、共働き家庭や保護者の仕事の関係で時間外の懇談設定になってしまう。							
<b>分析を踏まえた取組の改善</b>							
・時間の先読みを行い、学年の打ち合わせなどを効率よく行つて行けるように工夫する。							
・今後も時間外勤務の時間を声掛けなどで意識させる。							
・今後も校務支援員や部活動指導員の活用により、教職員の負担が偏らないように図っていく。							

学校関係者による意見・支援策

- ・行事の精選や日程の工夫により、仕事が集中することが無いよう見直し、ボランティアなどを活用して、働き方改革をさらに進めてもらいたい。